

## 基礎看護学実習計画

授業科目	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅲ
実習目的	看護の対象となる人への看護援助を通して、療養生活の場と看護活動を理解する。	看護援助を通して、患者にとっての援助の必要性を理解し、患者に必要な看護について考える。	患者のニーズに応じた援助を実践するための看護過程の基礎を学ぶ。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入院患者の1日の生活と療養環境が理解できる。</li> <li>2. 患者への看護援助場面を通して、日常生活援助の実際を理解できる。</li> <li>3. 看護者として望ましい態度、責任ある行動がとれる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病・治療・入院に対する患者の思いを聴き、生活の変化から患者にとっての援助の必要性を考えることができる。</li> <li>2. 患者のニーズを充足し、療養生活を支えるために必要な環境調整・生活援助が理解できる。</li> <li>3. 援助場面の振り返りを通して、患者にとって必要な看護について考えられる。</li> <li>4. 看護者として望ましい態度、責任ある行動がとれる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の置かれている状況について共感的に理解し、援助的関係を構築できる。</li> <li>2. 疾病・治療が患者に与える影響を理解し、患者のニーズを充足するための看護が理解できる。</li> <li>3. 患者のニーズを充足するための援助を、患者のペースに合わせて指導を受けながら実施できる。</li> <li>4. 看護者として望ましい態度、責任ある行動がとれる。</li> </ol>
実習方法	病態が安定し、コミュニケーションが取れる患者を1名受持ち、日常生活援助を見学する。	患者を1名受持ち、疾病・治療状況を理解しながら、日常生活の援助を実施する。	患者を1名受持ち、一連の看護過程を展開する。
開講時期	1年次前期	2年次前期	2年次前期
単位・時間	1単位 45時間	1単位 45時間	2単位 90時間
評価	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に掲示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に掲示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に掲示する。
先修条件	なし	基礎看護学実習Ⅰの単位修得	看護実践演習の単位修得 基礎看護学実習Ⅱの履修

## 地域・在宅看護論実習計画

授業科目	地域・在宅看護論実習Ⅰ				地域・在宅看護論実習Ⅱ		
実習目的	様々な健康レベルの対象者が、地域の中でどのような保健行動やサービスを活用しながら、何を大切に暮らしているのか生活の実際を知る。				地域で生活しながら療養する人々とその家族の生活を理解し、在宅で提供する看護実践に必要な基礎的能力を養う。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>様々なサービスの目的とサービス内容、その対象者について理解する。</li> <li>利用者との関わりを通して、その方々がそれぞれの生活の場で何を大切に暮らしているかを知る。</li> <li>地域で生活を支えるための多職種との協働の実際や看護の活動について知る。</li> </ol>				<ol style="list-style-type: none"> <li>在宅療養者と家族の生活を理解し、対象に応じた看護援助を考えることができる。</li> <li>在宅ケアに関係する職種や機関を理解し、連携・協働の必要性と意義が考えられる。</li> <li>健康障害に応じた在宅ケアシステムについて理解し、必要な社会資源や保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を考えることができる。</li> </ol>		
実習内容	まちなか	通所介護	障害者施設	健診センター	訪問看護	老人保健・福祉施設	町村地域包括支援センター
	<ol style="list-style-type: none"> <li>まちなかで行われているプログラムに参加し、参加対象者や参加目的を理解する。</li> <li>高齢者の地域での暮らしぶりを知ることや何を大切に暮らしているかを理解する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>通所介護を利用されている高齢者の特徴や利用目的について理解する。</li> <li>通所介護でのサービス内容や利用者や家族が期待していることについて理解する。</li> <li>安全なサービス提供のための連携の実際について理解する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>利用者との関わりを通して、施設利用の目的と対象者の特徴を知る。</li> <li>生活介護や自立訓練、就労支援などの活動に参加し、1日の暮らしがどのように支えられているのかを知る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>自らの健康の保持増進、疾病予防のためにどのようにヘルスケアシステムを活用しているのかを理解する。</li> <li>地域で暮らす人々の健康を支える保健活動の実際を知る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>療養者の訪問目的について説明を受け、理解できる。</li> <li>療養者の生活を知り、行われている援助や活用している社会資源とその必要性について理解できる。</li> <li>次回の訪問までを予測した援助について考えることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>介護保険制度における施設サービスの内容や特徴、基準が理解できる。</li> <li>施設で暮らす高齢者の日常生活状況が理解できる。</li> <li>高齢者を支える制度とシステムを理解し、福祉チームの中での看護の役割について考えられる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援センターの役割・機能が理解できる。</li> <li>在宅ケアに係る職種や機関との連携内容を理解し、連携・協働の意義が考えられる。</li> <li>在宅ケアシステムを理解し、その中での看護の役割について考えられる。</li> </ol>
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>行われているプログラムに参加。</li> <li>カフェで参加者やボランティアの方とのコミュニケーションをはかる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各施設のプログラムに沿ってケアに参加する。</li> <li>食事や入浴、排泄援助などに積極的に参加する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>日課に合わせ各サービスに参加する</li> </ol>	健診と保健指導の見学とインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例を受持ち、同行訪問後、基礎情報を整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各施設の日課に沿ってケアに参加する。</li> <li>食事や入浴、排泄援助などに積極的に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれのプログラムに沿って実習</li> <li>それぞれのプログラムに応じた実習時間とし、現地集合、現地解散とする。</li> </ul>
	1グループ2～3名の配置 各施設1日ずつの実習とする。				1グループ2～3名の配置 各セクションを1週ずつローテーション		
開講年次	1年次後期				3年次		
単位・時間	1単位45時間				2単位90時間		
評価方法	出席状況・態度・実習目標達成度(評価表による)				出席状況・態度・実習目標達成度(評価表による)		
先修条件	なし				地域・在宅看護論6科目の履修		

## 成人看護学実習計画

授業科目	成人看護学実習 I	成人看護学実習 II
実習目的	成人期にある対象の特性をふまえ、健康の保持増進、経過及びセルフケア能力に応じた看護実践ができる。	
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の望む生活やおかれている状況を理解し、必要な援助について考えられる。</li> <li>2. 疾病や治療の経過、症状に応じた援助が考えられる。</li> <li>3. 患者の苦痛や気がかりに関心を寄せることができる。</li> <li>4. 患者の看護の責任をもつ行動について理解できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の望む生活やおかれている状況を理解し、必要な援助について考えられる。</li> <li>2. 疾病や治療の経過、症状に応じた援助が考えられる。</li> <li>3. 患者の苦痛や気がかりに関心を寄せることができる。</li> <li>4. 患者の看護の責任をもつ行動について理解できる。</li> </ol>
実習方法	急性期・周手術期にある患者への看護実践	慢性期・回復期にある患者への看護実践
	1グループ5～6名の配置	1グループ5～6名の配置
開講時期	2年次後期	2年次後期
単位・時間	2単位90時間	2単位90時間
評価	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。
先修条件	成人看護学概論、基礎看護学実習Ⅲの履修	成人看護学概論、基礎看護学実習Ⅲの履修

## 老年看護学実習計画

授業科目	老年看護学実習 I	老年看護学実習 II
実習目的	健康障害を持つ患者の特徴と経過、療養の場に応じた看護が実践できる。	
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の望む生活や、加齢現象・健康状態を理解し、必要な援助について考えられる。</li> <li>2. 健康障害を持つ患者に、疾病や治療の経過、症状に応じた援助ができる。</li> <li>3. 患者の苦痛や気がかりに関心を寄せ、尊重した態度がとれる。</li> <li>4. 患者の看護に責任をもつ行動ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者とその家族の望む生活や、健康状態や加齢変化を理解した看護が判断できる。</li> <li>2. 多様な健康状態にある患者とその家族に対して、健康レベルと療養の場に応じた看護が実践できる。</li> <li>3. 患者とその家族との援助関係が形成できる。</li> <li>4. メンバーの一員としての自覚を持ち、受け持ち患者のケアが継続できるような役割発揮ができる。</li> </ol>
実習方法	リハビリテーション期・慢性期・回復期にある患者を受け持ち、看護を展開する。	多様な健康レベル(急性期～慢性期、終末期)にある患者とその家族に対して経過と療養の場に応じた看護を実践する。
	1グループ3～6名の配置	1グループ3～6名の配置
実習時期	3年次	3年次
単位・時間数	2単位90時間	2単位90時間
評価	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。
先修条件	老年看護学概論 I・II 老年看護学援助論 I・II の履修 基礎看護学実習 III の単位修得	老年看護学概論 I・II 老年看護学援助論 I・II の履修 基礎看護学実習 III の単位修得

## 小児看護学実習計画

授業科目	小児看護学実習 I	小児看護学実習 II
実習目的	あらゆる健康レベルにある子どもや家族との関わりを通して、小児看護に必要な基礎的能力を養う。	
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域での集団生活を通して成長発達する子どもの理解ができる。</li> <li>2. 子どもと遊び、子どもの生活状況の観察、援助を通して子どもの成長発達に向けた支援が理解できる。</li> <li>3. 地域の子どもと子育て家庭への支援を理解できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害や入院が成長発達段階にある子どもと家族に与える影響について理解することができる。</li> <li>2. 健康障害をもつ子どもと家族に必要な看護を明らかにし、日常生活援助が実施できる。</li> <li>3. NICUにおける看護の特殊性と看護者の役割を理解できる。</li> </ol>
実習方法	帯広市内の保育所での実習 帯広市内の地域子育て支援センターでの実習	小児病棟・NICUでの実習
	1グループ2～5名の配置	1グループ5～6名の配置
実習時期	2年次 前期	3年次
単位・時間	1単位 45時間	1単位 45時間
評価	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。
先修条件	なし	小児看護学概論、援助論 I・II、援助論演習の履修 基礎看護学実習Ⅲの単位修得

## 精神看護学実習計画

授業科目	精神看護学実習		
実習目的	精神障害のある対象の理解を深め、対象に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を修得する。		
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害のある対象を、ひとりの人間として尊重することができる。</li> <li>2. 精神障害が日常生活や対人関係に及ぼす影響を理解できる。</li> <li>3. 精神障害のある対象を理解し、病期や治療過程に応じた看護活動について理解できる。</li> <li>4. 精神障害者が地域で生活するための支援について理解し、求められている看護の役割を考えることができる。</li> <li>5. 患者－看護師間の相互作用の中で、学生自身が治療的環境の一部であることを意識して行動することができる。</li> </ol>		
実習内容	病院実習	多機能型福祉サービス事業所	包括型地域生活支援プログラム
	1. 患者の入院形態、入院目的を理解できる。	1. 実習施設の概要、役割、機能を理解できる。	1. 実習施設の概要、役割、機能を理解できる。
	2. 疾病、治療の経過を理解し、病期に応じた看護の目標を理解できる。	2. 就労支援、活動支援、生活支援の実際を通して、社会資源等のサービス利用の意義を理解できる。	2. 訪問事例の利用目的の理解を通して、地域の中で暮らす精神障害者を支えるためのACTの役割を理解できる。
	3. 患者の生活を支えるために必要な看護援助を理解し、指導を受けながら安全に実施できる。	3. 精神障害者の回復のプロセスを支える看護の役割について、考えることができる。	3. 利用者の生活を支援するための、多職種連携や社会資源の活用について理解できる。
実習方法	<p>患者1名を受け持ち、閉鎖病棟における患者の日常生活援助を中心に看護過程を展開する。</p> <p>帯広厚生病院 6日間</p>	<p>サービス利用者・スタッフとともに作業・活動プログラムに参加し、地域で生活する精神障害者の就労支援および生活支援の実際を学ぶ。</p> <p>稲田館 1日間 帯広ケア・センター1日間</p>	<p>スタッフとともに地域で生活する精神障害者の元へ訪問し、生活を支援するための社会資源について学ぶ。</p> <p>あうとりーち十勝 半日 (午前) 学内実習 半日 (午後)</p>
	1グループ2～3名ずつの学生で構成する。		1～2名の学生で構成する。
開講年次	3年次		
単位・時間	2単位90時間		
評価方法	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。		
先修条件	精神看護学概論Ⅰ・Ⅱ、援助論Ⅰ・Ⅱの履修、基礎看護学実習Ⅲの単位修得		

## 母性看護学実習計画

授業科目	母性看護学実習			
実習目的	マタニティサイクルにある母子の身体的・心理的な特徴と健康課題への理解を深め、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。			
実習目標	<p>1. 妊産婦および新生児との関わりを通して、身体的・心理的・社会的な特徴や生理的な経過を理解することができる。</p> <p>2. マタニティサイクルにある女性の主観的な考えを大切にし、より健康で安全な妊娠・分娩・産褥経過を促進するための看護について考えることができる。</p> <p>3. 母子をとりまく保健・医療・福祉関係者と連携・協働し、子どもを産み育てることを支援する必要性について理解できる。</p>			
実習内容	地域実習	外来実習	産科病棟	新生児室
	<p>1. 母子が地域とのつながりの中で生活している存在であることの理解</p> <p>2. 子育て支援事業・母子保健事業についての理解</p> <p>3. 母性看護における看護の継続性と多職種連携・協働の必要性についての理解</p>	<p>1. 妊娠各期の生理的変化及び胎児の発育状態の理解</p> <p>2. 妊娠各期の心理・社会的状態の理解</p> <p>3. 妊婦の日常生活と関連付けた保健指導の必要性の理解</p>	<p>1. 産褥期の生活と産褥経過の理解</p> <p>2. より健康で安全な産褥経過を促進するための看護の理解</p> <p>3. 親子関係確立に向けた看護の理解</p> <p>4. 継続看護の必要性の理解</p> <p>5. 分娩期の看護の理解</p>	<p>1. 早期新生児の生理的特徴の理解</p> <p>2. 早期新生児の諸検査、ケアの目的の理解</p> <p>3. 子宮外生活適応に向けた日常生活援助の理解</p>
実習方法	地域で行われている子育て支援事業・母子保健事業の見学	助産外来の見学	受け持ち褥婦の看護の実施	新生児看護の見学・実施
	各セクションをローテーション			
開講年次	3年次			
単位・時間	2単位90時間			
評価方法	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。			
先修条件	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、母性看護学援助論演習の履修、基礎看護学実習Ⅲの単位修得			

## 看護の統合と実践実習計画

授業科目	統合実習
実習目的	看護チームの一員として主体的に看護を実践し、チームメンバーの役割について考え、その責任を果たす行動について理解することができる。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護チームの一員として受け持ち患者のケアの責任を果たす行動について理解できる。</li> <li>2. 看護師として必要な態度と自己の課題を明確にできる。</li> </ol>
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受け持ち患者のケアの責任               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 受け持ち患者のケアの責任                   <ol style="list-style-type: none"> <li>①受け持ち患者の計画立案</li> <li>②患者に合わせた安全・安楽な援助の実施</li> <li>③介入計画の評価と継続</li> </ol> </li> <li>(2) 多重課題における看護の優先順位の判断の理解                   <ol style="list-style-type: none"> <li>①本日の行動計画の立案</li> <li>②看護師のシャドウイング</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 看護師として必要な態度と自己の課題の明確化               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 専門職業人としての必要な接遇</li> <li>(2) 患者を理解しようとする態度</li> <li>(3) チームへの報告・連絡・相談</li> <li>(4) 自己の看護観の整理</li> </ol> </li> </ol> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p>1 グループ 3～5名配置</p>
開講年次	3年次後期
単位・時間	2単位90時間
評価方法	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。
先修条件	基礎看護学、臨地実習（基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域・在宅Ⅰ、成人Ⅰ・Ⅱ、小児Ⅰ）の単位修得 臨地実習（老年Ⅰ・Ⅱ、小児Ⅱ、母性、精神、地域・在宅Ⅱ）の履修